

東由利村報

No. 121 1967・8・1

発行
秋田県東由利村役場
発行日
毎月1日(1部5円)
印刷
KK本間印刷所
昭和42年7月21日
第3種郵便物認可

ようにしていただきたい。
(青少年対策室)

成人式・8月15日

昭和42年の成人式は前年どおり8月15日・午前9時30分より役場で行われます。

成人式の該当者は昭和21年4月2日から22年4月1までに生れた人です。

近く案内状が発送されます
が、就職などで転出している
人でとくに村に帰って参列を
希望する方は、至急教育委員会
成人式係まで連絡して下さい。

交通水難事故緊急対策協議会

この会は県の緊急指令によ
つて7月27日、体育指導員・
青年会長・婦人会長・児童委員・
子ども会世話人代表・P
TA会長・警察側・交通安全
対策協議会・交通安全協会など
の参集を求め、県側から派
遣された県警本部交通部長佐
野岩三郎警視・厚生部福祉課
安藤氏を中心に協議が行われ
た。

安藤氏よりは水難防止、佐
野氏よりは交通事故防止につ
いて、説明あり、一般県民の
強い協力が求められた。

それより参会者の質問と意
見の発表となつたが、水難防
止については、25日夏休み前
の校長会で協議の上、こまか
いところまでの対策をたて、
児童生徒を通じて各戸に配布
してあり、各部落毎に地域の
実情に即応して対策を実施し
ている段階なので、その計画
を再確認し、決意を新たにして
事故をなくすこととし、県
に対しては「時機を考えて実
際に役立つように計画してもら
いたいと要望した。

交通安全については、実例
について色々話し合つたが、
結局交通道徳の確立は大人の
姿勢を正すのが根本であると
結論づけた。

■ カツバ天国

かんしの小父さんもニコニコ顔

小笠原彦次氏葬儀

7月14日なくなられた小笠原彦次さんの葬儀は17日蔵立寺で故人の遺徳をしのぶ会葬者多数参列のもとに行われた

氏は資性温健中正、至誠をもって生涯をつらぬかれた方で、少壯時代から特に畑作の研究に精進せられ、甘譜の貯蔵法を始めたたくさんの新らしい技術を広めておられます。

昭和12年下郷村村会議員として17年まで5カ年間村政につくされ、昭和24年中央部農業協同組合長、26年下郷村共済組合長に就任、昭和40年まで14年にわたり組合事業に専念せられた。組合の強固な基礎は全く氏の力によるところあります。

昭和37年11月、東由利村表彰条例によって功績章を贈られました。

8月20日は 「家庭の日」

- 夏休みを反省しましよう
- 1 きまりよい生活が出来たかどうか
- 2 早ね早起き・勉強と遊びの時間がよく守られたか
- 3 うちの仕事の分たんをよく果したか
- 4 どんなふうにからだをきたえたか
- 事故防止について話しあいましょう。
- 1 道路で遊ばないか
- 2 通学の途中など事故のないように交通規則をよく守っ

ているか。

■ 農休日・公休日を「家庭の日」に合せるよう ■

毎月の第3日曜を「家庭の日」に定めて県民運動を進めてから、農休日ならびに一般商店事業所等の公休日を調整して、出来るだけ「家庭の日」に合せるようお願いして来たところでありますが、せっかく県が「家庭の日」を第3日曜に設定しながらそれぞれの理由から農休日、公休日をバラバラに実施している実情にかんがみ、関係機関・団体の協力を得て「家庭の日」の普及推進をはかるため、今後は出来るだけ農休日ならびに一般商店・事業所等の公休日を第3日曜に合せて実施する

東由利村長選挙結果

任期満了による東由利村長選挙は、7月29日行われ即日開票の結果次のとおり決定した。
当選、小松 栄男、2,565票
落選、阿部直一郎、1,901票

当日の有権者数、	4,684
投票総数、	4,479
投票率、	95.62%
投票総数、	4,478
有効投票、	4,466
無効投票、	12



出羽山地縦貫林道開設工事促進陳情

黒沢林道が近く完通する



黒沢林道は、矢島町一東由利村一大内村一雄和村を経て秋田市に通ずる重要な道路で沿道には厖大な山林資源がある。これを早く開発するため関係4カ町村では、「出羽山地林道開発推進協議会」をつくって事業の推進に努力して来た結果、未開修個所は黒沢~井戸台間5,400mだけ

となった。

これをより早期に開発してもらうための陳情が7月13日袖山小学校で行われ、関係4カ町村長・東由利村議會議員・袖山舟打場大吹川須郷の部落民が集合し、協議会の要請により、矢島町から基幹林道軽井沢線を視察して来た松橋副知事・林政課長等県庁関係職員20余名をむかえて開催された。

始め林政課長より全線にわたり詳細な説明、副知事の力強い協力を約束する挨拶あり、矢島・東由利両首長の希望にあふるる感謝のことばでおわった。

一行はさらに切迫した時間を割いて、石田坂地区堤防計画を視察して羽後町にむかわられた。



写真 上 副知事あいさつ

下 茶屋長根についての副知事一行

右上 説明会

水上安全法講習

近年まれな暑さのせいもあって、全国的におびただしい水による死亡者が多く出ている折柄、7月26日午後1時から蔵小学校で「日赤水上安全法」の講習が行われた。

受講者は小中学校教職員・部落長・子ども会会員など多数で、日赤水上安全指導員佐々木金一氏の指導により、次のような方法を熱心に実習した。

指導事項

1. 溺者に近よる方法（逆行の姿勢）
 - イ、後方より近よる方法
 - ロ、前方より近よる方法
2. 溺者を運ぶ方法
3. 溺者に抱きつかれた時、それを解く方法
 - イ、前から抱きつかれた時
 - ロ、前から頭を抱かれた時
 - ハ、前から首に抱きつかれた時
- ニ、後から首に抱きつかれた時
- ホ、片手で片手をつかまれた時
- ヘ、両手で両手を

4. 溺者を水中から上げる方法
5. 二人抱き合っておぼれようとしている時
6. 水中ケイレンの起きた場合
7. 人口呼吸法

ニルセン式、口から口へ法人工呼吸は分秒を争うて早く実施すべきで、水をはかせたりして手間取ることなく、すぐに始めること。

おぼれてから1分以内に始めた場合は97%ほどの効果があがっているが、10分以上経過してからでは容易に効果があがらない。

8月は個人事業税の納期

8月は個人事業税の納期です。県ではみなさんから納めていただく税金や諸収入で豊かな住みよい郷土作りに努めています。

「今月は個人事業税の第1期納期です」

財務事務所から納税通知書が届きましたら8月31日の納期前に、はや目に納付して下さい。県税は、郵便局・銀行・信用金庫で取扱っている外、直接財務事務所に納めることも出来ます。

納期を失しますといろいろ手続きがめんどうになり、お互に迷惑しますので、期限を忘れないよう注意して下さい。（由利財務事務所長）

7月1日から印紙税が改正

7月1日から新しい印紙税法が適用されることになりました。みなさんに関係の深いものはつぎのとおりです。

①金銭の受取書

1通につき20円（記載金額1万円未満のものおよび営業に関しないものを除く）

②有価証券の受取書

1通につき20円

③通帳

1冊につき40円付込み1年間

④判取帳、1冊につき400円付込み1年間

通帳判取帳については最初の付込み月日が作成月日となりますのでご注意ねがいます。

なお、この他の税額についても全部改正になりましたので不明の点は商工会におたづね下さい。

郷土史夜話

鉄砲の名人 牧新右衛門

由利十二頭の一人、下村藏人奥長の家来に牧（一説に真木）新右衛門がいた。

根城館に仁賀保と庄内の連合軍が押寄せ、石沢川を渡って攻めてきたとき新右衛門は鉄砲で馬上の侍を川に打落とした。その侍は庄内のかも（加茂）出身であったため、敵が流れた死がないを引上げた場所の田のあざ名を「かもざむらい」といったというが、はたしてその地はどこだろうか。

その後新右衛門は、保呂羽山にこもった仙北勢の攻撃にも加わり、鉄砲で53人も打殺したので、その威力によって和談がとんとん拍子に進んだという。以上は元禄7年の「下村古来物語」に書かれている牧新右衛門の武勇談である。

保呂羽山攻撃のとき53人

- ⑨ も鉄砲で打取ったという記述は少々オーバーな気もするが、牧新右衛門

の存在は事実だったようだ。古来物語には矢島出の侍で、子孫はその当時、新助といったと書いてある。

ところで牧新右衛門が活躍した両度の合戦の時期はというと、根城館の戦いの場合、高橋孝二郎先生が編集した郷土史年表によると天正年間とあり、原典はわからぬが大体その頃だろうと考えられるし、保呂羽山攻撃は古来物語に「下村殿の後……」ということと「和談になった」という記述から、慶長5年関ヶ原の戦いと前後して上杉勢に味方した小野寺党を最上あるいは秋田氏とともに由利の軍勢が攻撃しているので、このときでないかと推察される。ちなみに下村殿はこの当時すでに滅亡していたので、新右衛門は浪人としてこれに参加したのかもしれない。

宿健児団50周年記念式

物故団員大法要

7月15日宿・巾野両部落では、健児団の50周年祝賀会と物故団員追悼大法要を行った。

健児団の創立は明治44年8月15日で今日まで実に57年を経過している。小野繁記氏等当時の青少年が自発的に結成したもので、団則第2条に、「本団は智徳の修養・公共精神の発達をはかり、独立独行風俗の矯正並びに勤勉貯蓄の美風を養成するを以て目的とす」と立団の精神を明確にし、団歌の始めには「照々もらさず日吉宮」と神社中心の団結をうたい。「静かに待てや健男児、智徳と稱の育つ日を」と結んでいます。

■ 団の運営

団の運営は総会を中心に行われ、毎月旧15日月明の夜を日

感謝状ならびに記念品を贈呈し、団の基本財産杉5600本の植林地は部落に寄託することとし、今回をもって健児団は解散し、部落づくりより村づ

くりの推進に努力することを申し合せた。それより遠来の旧団員を交じえ、一生一代の盛宴が行われた。



追悼会



記念斎園（墓地）

東由利村社会人野球大会

大会期日 8月16・17日 大会場所 台山グランド
組合せ

1 住 吉	1 16日 8.00 A	2 17日 10.30 A
2 新 町	4 16日 3.30 A	
3 玉米青年会		
4 館合製材	2 16日 10.30 A	
5 玉米農協		1 17日 8.00 A
6 宿	3 16日 1.00 A	
7 蔵ローズ		3 17日 2.00 A
8 老方クラブ	1 16日 8.00 B	
9 郵便局		4 16日 3.30 B
10 袖 山		
11 法 内	2 16日 10.30 B	2 17日 10.30 B
12 玉中O.B		1 17日 8.00 B
13 谷 地 町	3 16日 1.00 B	
14 役 場		

■ 主な公共事業

植林地の収入により、ポンプ置場、部落会館の建設、昭和22年の洪水による宿橋、下吹橋の架替え、宿橋取付道路のつぶれ地代償支払いなど。

■ 50周年記念事業

宿・巾野・下吹の共同墓地を拡張整備し、50周年記念斎園をつくった。この経費のうち35万円を支出す。

■ 追悼大法要

先輩団員物故者35柱の靈をとむらい、団員全員で新たに整備された記念斎園に卒塔婆をたて香華を手向けた。

■ 記念祝賀会

永年にわたる団の功労者に

かぶと虫動かすなりぬ教室の窓より蝉の声通り来る
その長き触角をかすかにふるはせて命の限り生きむとするも
かぶと虫いのち絶へしか静かなる黒き姿態は動くともせず
あることに帰るすべなしかぶと虫は標本をつくる子らにかこまる
六つあしをうちふるはせてあがけども針にとめられしかぶと虫
あはれあしをうちふるはせてあがけども針にとめられしかぶと虫

昆蟲標本

山田礼智

第12回 東由利村畜産共進会

7月7日台山馬検場で開催
出陳頭数
和牛の部

12カ月以上	20カ月未満	20
20カ月以上		13
乳牛、ホルスタイン		
8カ月以上		10
乳牛、ジャージー		
8カ月以上		11

入賞

和牛 20カ月未満

1等賞	祝沢 小野 徳松
"	八日町小松繁太郎
2等賞	葦沢 高沢長一郎
"	宮ノ前小松 義男
"	新沢 菊地 文雄
3等賞	野田 阿部 次郎
"	新沢 佐藤 真一
"	小倉 伊東 高雄
"	大台 小松昭一郎

和牛 20カ月以上

1等賞	新田 畑山喜一郎
2等賞	山崎 小松 彦作
"	祝沢小笠原清一郎
"	新田 高橋重四郎
3等賞	山崎 小松 与吉
"	小松 良一
"	"

乳牛 ホルスタイン種

1等賞	舟木大庭喜右エ門	多く年々向上のあとが著しい
2等賞	小倉 阿部 松雄	◎乳牛の部
"	新町 宮塚 昭三	○ホルスタイン種
3等賞	下小屋佐藤文一郎	出陳牛10頭のうち発育標準
"	新町 佐藤 菊藏	に達しておるものが半数の5
"	湯出野佐藤千代藏	頭で、体型・体質については
		一部のものを除いて皆優秀と
		拝見しました。
		発育標準に達しない牛は、
		被毛の光沢がなく、体型も崩
		れてきておりますので、今後
		一層の努力を要します。
		1等賞に擬賞した牛は発育
		標準をはるかに超えており、
		体型も伸び伸びとゆとりがあり、各部のつり合いもとれて
		營養もよく、非常にりっぱな牛と見ました。（以下大同小異につき省略）

物すごい集中豪雨



7月28日午後8時30分頃からはげしい雷鳴をともなった猛烈な集中豪雨がやってきた。村で気象観測を始めて以来かつてなかったことで、役場前の観測機の自動記録によると、下表のとおり9時から11時までの2時間に93ミリという大雨で、降り始めから終わりまで155ミリも降っている。村内でも茂沢・祝沢、特に牧山川の三つがまとまった水をとともに受けた寺田の被害は最も大きく、牛を避難させるひまもなく、軒先のテラーや耕耘機を流した家もある。

被害調（道路関係）

□茂沢線、8カ所	69万円
□祝沢線、3カ所	27.5 "
□法内線、6カ所	83.5 "
□田ノ沢線4カ所	5 "

被害額概算 305万円
外に県道老方沼館線（祝沢まで）5カ所
降雨量（28日午後）
8.30~9.00—20mm
9.00~10.00—59
10.00~11.00—34
11.00~4.00—42
計 155
この外水田の冠水・埋没の個所はいたるところにあり、折しも開花期なので稻の被害は大きい。

昭和42年度

狩獵者講習会

日時及び場所

- (1)経験者過程 8月29日午前9時、由利地方総合庁舎
(2)初心者過程 8月30日（以下(1)と同じ）

下中同窓会結成

20周年記念誌発行

下郷中学校卒業者は、6月中同窓会を結成し、創立20周年を記念して、卒業生2687名の名簿を含む記念誌の発行を計画していたが、8月10日出来上ることになった。

全県

英語暗誦大会で入賞

7月9日のこの大会に、本荘市由利郡の同大会で優勝した下中3年の小野美紀子さんが、郡市代表として出場し、4位に入賞した。

「青年の船」

一般団員募集

「青年の船」に乗って東南アジアを一まわりする希望者がありませんか。

総理府では、昭和42年度「青年の船」を実施することになり、8月25日まで、申し込むことになっておりますのでご希望の方は役場へお出で下さい。

1、事業のあらまし

①使用船 日本産業見本市協会の「さくら丸」

②運行日程 昭和43年1月～3月、東南アジア53日間

③寄港予定地 東京—キールン—バンコック—シンガポール—コロンボ—マドラス—ポートスエッテンハム—シンガポール—マニラ—那覇—神戸

④活動 ア、船内研修 イ、寄港地における視察

2、「青年の船」の団員 一般団員、男女280名、役員50名、教官・管理要員

3 参加者負担金

船内費用1人5万円以内、外に出入国その他の手続きに要する経費

4 応募資格

年令18才～26才の男女 その他くわしいことは役場に聞いて下さい。